
君と私の720時間

サラ@リアでも友達がいらない

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君と私の720時間

【Nコード】

N2120Y

【作者名】

サラ@リアでも友達がない

【あらすじ】

どこにでもいるような中学生、小野遥香。

引っ込み思案で人を信じることが出来ない女の子。

毎日同じような生活を繰り返すたび、自分の存在意義が無いような気になってくる。

何の変哲も無い、その辺の人と変わらない自分。

いつそのこと死んでしまおうか？

そんなことを考え、ついに自殺を決意。

学校の屋上から飛び降りようとしたその時。

後ろから肩をつかまれる。

ふと振り向くと、そこにいたのは自分と同じくらいの半透明な男の子。

その子を遥香は知っていた。

その子は遥香の父親が轢いて、なくなってしまった男の子、光崎雷斗。

一番憎いはずの遥香に、「死ぬな」という雷斗。

どうしてそんなことを言われるのかが分からない遥香。

そんな遥香に雷斗は、「死ぬなら一ヶ月待ってくれ。キミにはまだ生きる義務がある」という。

その言葉と、雷斗の真剣な眼差しに押され、自殺をあきらめる。

どうせ一ヶ月たっても何も変わらない。

そう考える遥香だったが……

初めての恋愛小説なので上手く書けるか心配ですけど、温かい目で見守ってください。

プロローグ（前書き）

全体的にギャグ・シリアスの比が6：4くらいになると思います。
いつもそんな感じですけど、とりあえずそれは置いといて本文をど
うぞ。

ブローグ

そこは、ほんの数秒前まではいつもと変わらない帰り道だった。

信号が赤から青に変わる。

僕は左右を確認していつも通りに渡る。

周りの人々も同じように渡っていく。

そんなときだった。

ブブーと車のクラクションが響く。

見ると、こちらに大型トラックが突っ込んでくる。

周りの人々は逃げ出す。

もちろん僕も。

走りながら横断歩道を振り向くと、小さな女の子がそのトラックの進路上に立ちすくんでいる。

このままじゃあの女の子が！

そう思いキッと足を止め、僕はまた走り出す。

今まで向かっていていた歩道ではなく、少女のほうに。

周りからは悲鳴が上がる。

「間に合えッ！」

僕は全速力で走り、女の子の元へたどり着く。

そして、思いつきり突き飛ばす。

女の子は恐怖の色で染めた顔を、一瞬だけ安堵の笑顔に変えた。だが、またすぐ恐怖でいっぱい顔になる。

それは、僕の体の骨が折れる、不気味な音を聞いたからだろう。不思議と痛みはなかった。

いや、痛すぎて何も感じないのかもしれない。
僕は静かに目を閉じる。

僕は死ぬんだな。
直感でそう悟る。

いや、悟らざるを得なかった。

思えば、短い人生だった。

今までのこと、覚えていること全てが、目の前で繰り返されている
ようだった。

いろいろと悔いはあったが、最期の最期に人の役にたてたことが嬉
しかった。

さようならお母さん、お父さん。そして……

「いやあああああああああ……！」

さっきの少女の叫び声で、僕の意識は途絶えた。

私、小野遥香は、家に帰ってテレビを見ていた。ニュースを付けて
いたのだが、政治がらみのことばかりでつまらない。私はまだ小6
なので、そんなことが面白いわけがない。

えー、ただいま臨時ニュースが入りました。あまがわ天川町の交差点で、

ひき逃げがありました。犯人は30代後半から40代前半の男性で、
緑のパーカーを着ており、黒のキャップとメガネをつけているとい
うことです。お心当たりのある方は、天川町警察署にお知らせくだ
さい。被害者は、薄い茶色の髪をした中学生で、市内の中学校に通
っている光崎雷斗君と思われますが、身元の確認を急いでいます。
制服姿であることから、下校途中に事故にあつたと見られる模様で
す。

緑のパーカーに黒いキャップ。そしてメガネをしている。

そんな格好、どっかで見たような……。

そう思った瞬間、朝お父さんがそんな格好をしていたような気がした。

まさか、ね……。

それでも気になって仕方がない。

それで、お母さんに確認してみた。

「お母さん。お父さん今日どんな格好だった？ 覚えてるだけでいいからさ、教えて」

「うーんと、緑っぽいパーカーに黒っぽい帽子かぶってた気がしたけど……。まあ、メガネはいつもしてるけど」

「どうしよう……」

本当にどうしよう。お父さんの服装とひき逃げの犯人の格好が全くといっていいほど一致している。

「お母さん、あれ……」

私はまだひき逃げ事件のことをやっているテレビを指した。

「ん、何？ ……ああ、ああ」

お母さんはそれを見るとひざを突いてがっくりと倒れてしまった。

「ああ、ああ、あなた……」

泣き崩れるお母さん。

それをどうしようもない顔で見つめる私。

今この瞬間から、遥香の人生は狂い始めた。

プロローグ（後書き）

どうしても良いんですが、久々に一人称僕の男子書きました。

……どうしても良すぎですね。

感想とかいただければ、うれしくて部屋中踊って回ります。
（馬鹿か）

とりあえず、見てくださりありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2120y/>

君と私の720時間

2011年11月4日16時22分発行